

第5回 菅生・大塚戸地区意見交換会
「新たな地域コミュニティ」の実現に向けて

地域の課題点と今後の取り組み

【1班】

保健福祉

- ・「一人暮らし高齢者世帯」および「高齢者世帯」等の、除草作業やゴミ出しの手伝いの提供
- ・高齢者への対応
- ・移動スーパーまで行くことが困難
- ・病院までの交通手段がない
- ・地域にスーパーがない

→買い物ができる施設の誘致（直売所・スーパー）、空き家の活用

- ・子育ての見守り
- ・登下校時の見守り（パトロール）
- 見守りすることで、親の負担が減少する
- ・防災運動会の実施（年に1度の行事として続ける）
- 午前に運動会、午後に防災運動会の実施し、お昼は炊き出し
- ・自宅前での見守りを行う（多世代交流に繋がる）
- ・地域でタクシー運営

→市で対応不可能な地域間は、タクシーを利用する、運行する曜日は決まっている、料金は一律〇〇円、ドライバーを地域の人に担ってもらう

生涯学習

- ・多世代間交流の実施
- ・地域で募集して旅行
- ・団体同士の組み合わせで、一緒にイベントを実施（子供会+老人会）

あすなろの里（すでに行っているイベント）

- ・門松づくり、ピザづくり、どんど焼き、クリーン作戦、芋ほり体験

【2班】

環境

- ・缶拾いを広く声掛けし、みんなで行う
- ・5月サツマイモの苗植え⇒みんなで収穫、耕作放棄地解消
- ・既存の事業の維持・拡充、(人を呼び込む) 色々な人に声掛けする
- ・「タチスミレ観察会」からの人の繋がりを拡充する
- ・廃品回収の維持⇒横の連携
- ・今ある組織が逆に壁を作っている⇒壁をなくし、若い方も入りやすくしたい
- ・核となるメンバーで協議会を発足するために、色々な会・団体に声掛けする

子育て

- ・若い方への情報発信のやり方(SNS等)を考える
- ・SNSを利用することで、若い方にも届くだろうか(新聞購読者が少ないから)
- ・PTAとの連携
- ・子育て世代をどう取り込むか
- ・参加者はいつも固定されている
- ・ターゲットは、子育て世代
- ・会長が現役世代だと続かない
- ・既存のイベントに子どもたちが参加する+αを考える
- ・バルーンアートの実施
- ・地女連との連携(何か協力できることがあればと感じているのではないだろうか)
- ・子どもが参加したくなるように、チラシに読み仮名をつけ、興味を持たせる
- ・子どもの習い事が土日にあるため、参加しにくい

福祉

- ・後継者問題⇒何をすれば入ってくれるか
- ・みどりの会⇒ビールを用意したら、若い人が参加してくれた
そういった若い方が参加したいと思うイベントを、どう地域に広げていくか
- ・役員の世代交代は大切である
- ・高齢者の健康増進を図る
- ・地域のキーマンを発掘する
- ・高齢者の生きがいとなれば、力を貸してくれるのではないだろうか
- ・宅地を増やすことで、若い人を増やす